

雪女

ゆきおんな



ゆきおんな
【雪女】

吹雪の夜に
あらわれ
男の命を
奪うという

凍らせたものを
あやつるとも



そこには

チロチロ

燃える

囲炉裏の火



これは
たすかる

この雪ん中
ここまでできた

だれか
獵師が
いたんだなあ

体が
あたたまり
うとうと

だとしたら
はすむかいの
じさまかな

少し…
休んで…
かえろう

まぶた
瞼が
おりて
くる

びゅううと
はげしい
風音で
しもとは
とびあがった



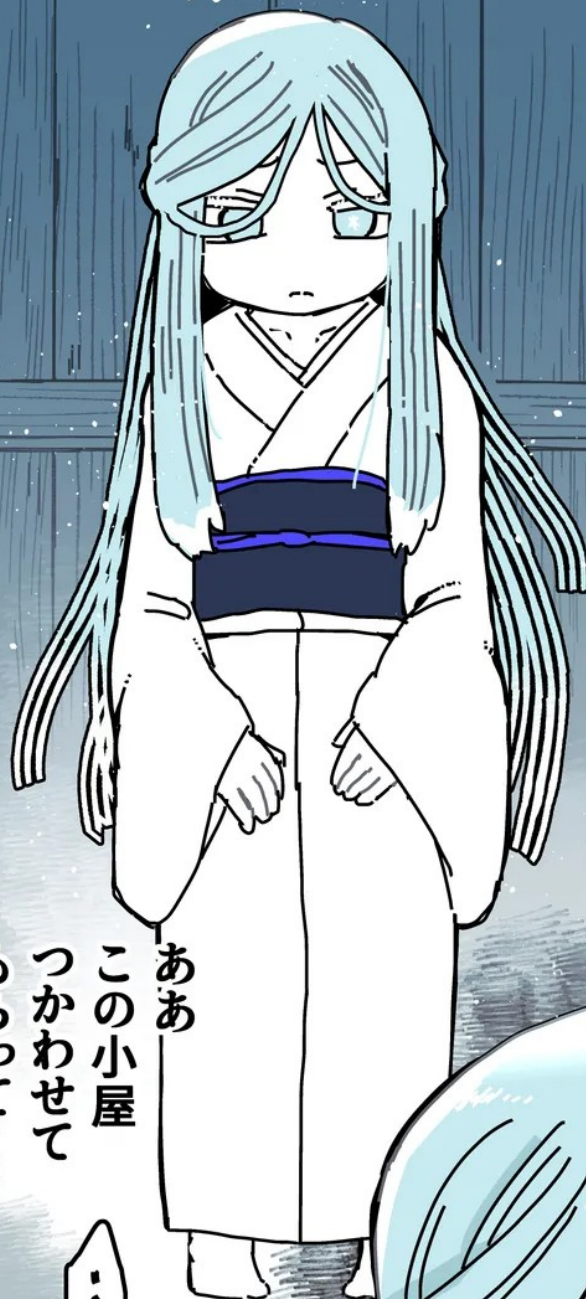
しかし
戸は
閉まって
いる

戸が
開いたと
思ったが
きのせいか



いつのまにか
白い着物の娘が

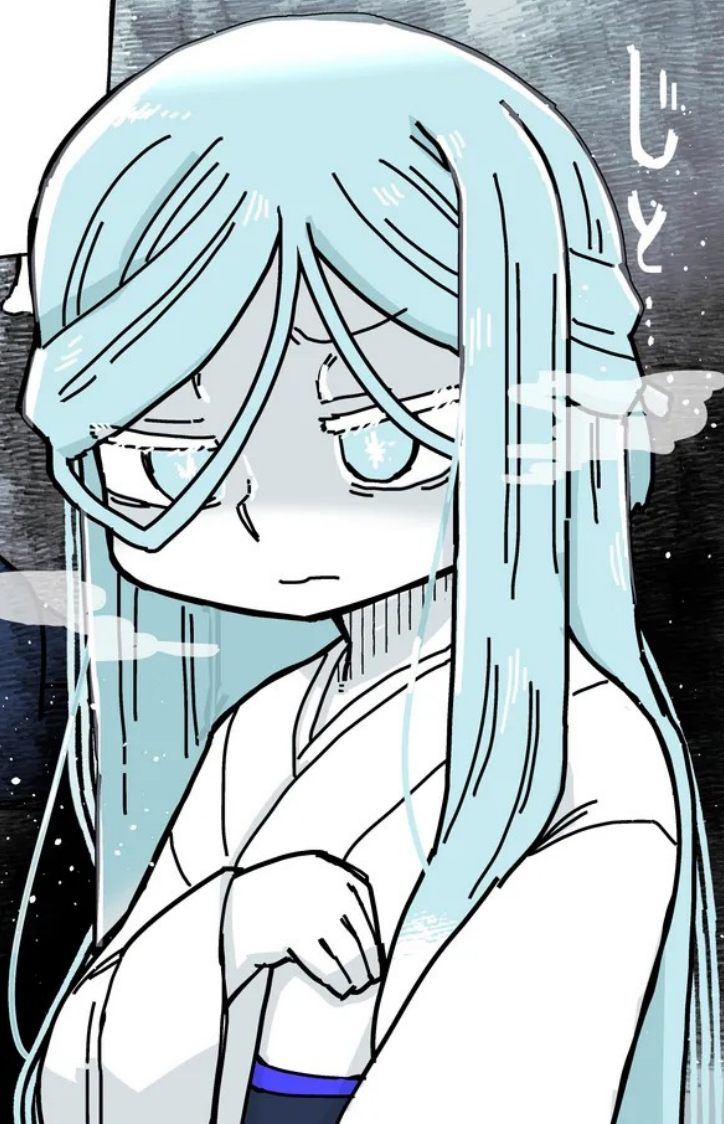
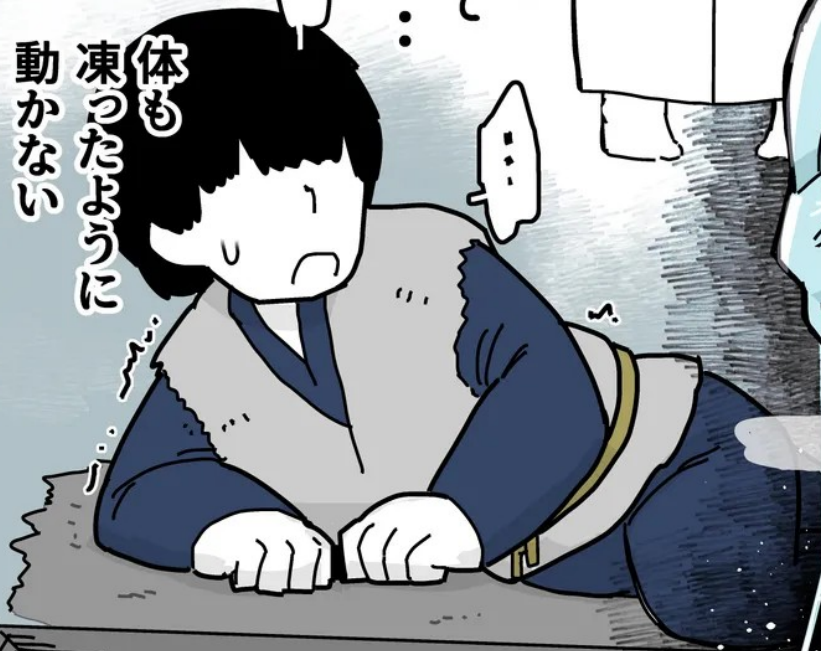
部屋の中に
立っていた



ああ
この小屋
つかわして
もらって...

こっ
声がでない

体も
凍ったように
動かない



じと

帯紐を
ほどく

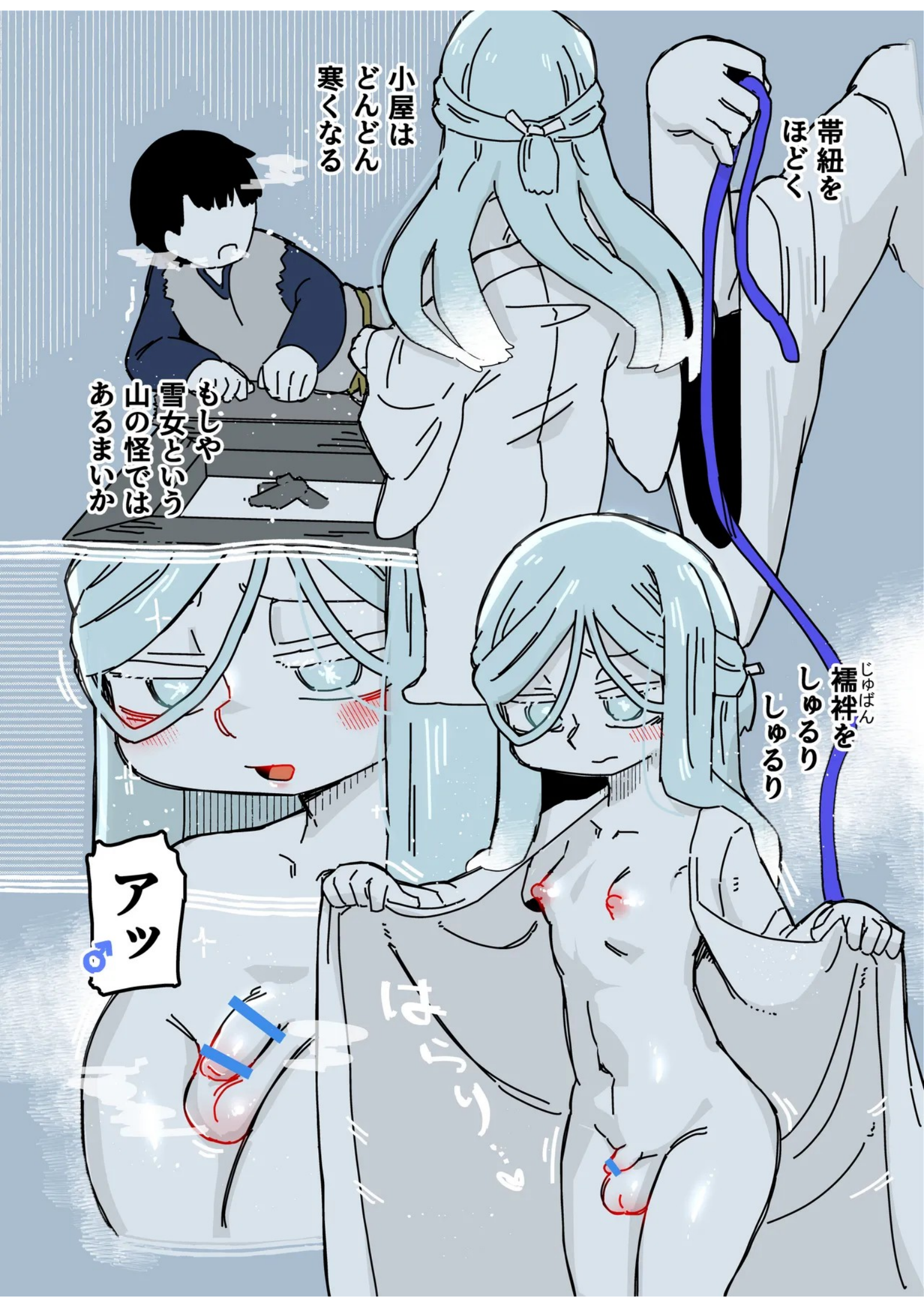
小屋は
どんどん
寒くなる

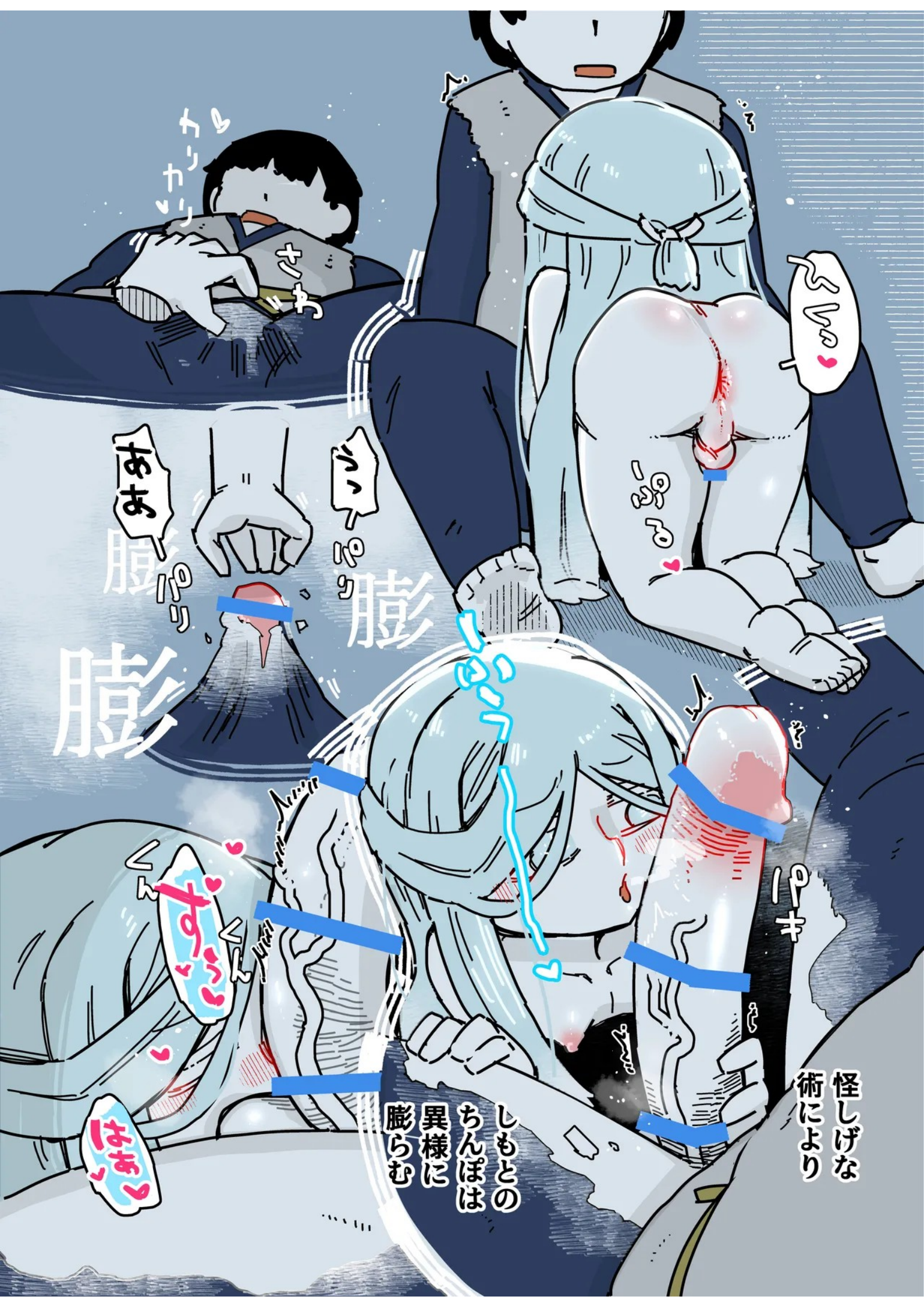
もしや
雪女という
山の怪では
あるまいか

じゅばん
襦袢を
しゅるり
しゅるり

アツ

はーい





カリカリ

おめ

ん

膨

膨

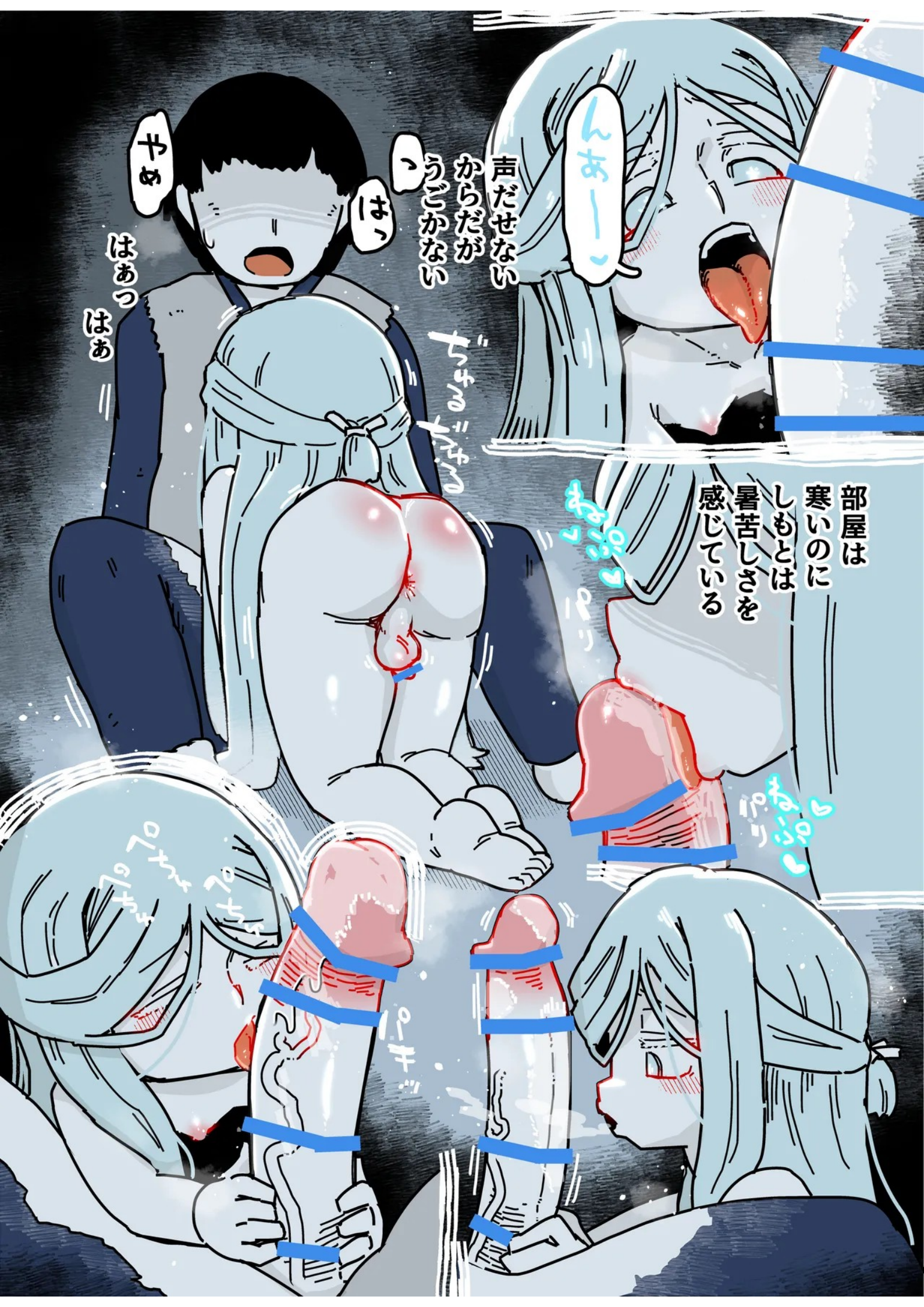
す

はあ

しもとの
ちんぽは
異様に
膨らむ

怪しげな
術により

イキ



やめ

はっ

っ

声だせない
からだか
うごかない

んあー

はあっ
はあ
＝

ぐちゃぐちゃ

部屋は
寒いのに
しもとは
暑苦しさを
感じている

もろもろ

もろもろ
やっ

もろもろ
やっ

もろもろ



あつらのだ
体がふるえる

んんん

あつら
あつら
あつら



とろみのある
つめたい唾

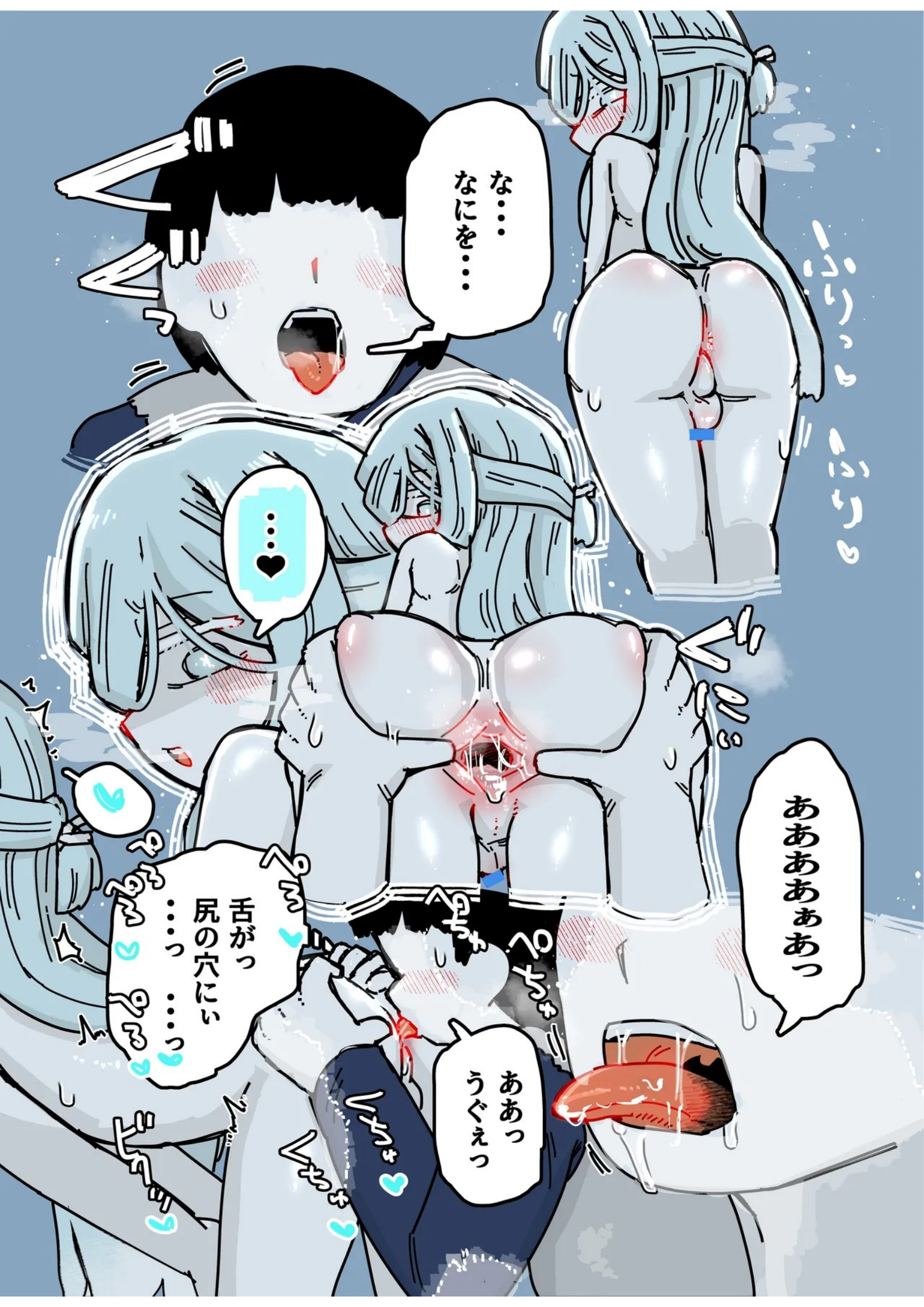
あつら
あつら
あつら

んんん
んんん



腹の底に
冷気が
たまつてゆく

んんん
んんん
んんん



な...
なにを...

...

あああああ

ああっ
うぐえっ

舌がっ
尻の穴にい
...っ
...っ
...っ



えっ...えっ...

あまい...
なんだこれ
おいしっ
あまいあまいっ

う...っ
?!...
あ あれっ

つめたくて
甘い露が
奥から
あふれてくる

うっ...
うっ...
うっ...

うっ...
うっ...
うっ...

うっ...
うっ...
うっ...

うっ...
うっ...
うっ...

ちんぽに
体中の熱が
集まっている

パキ

ハァ
ハァ

むっ
むっ

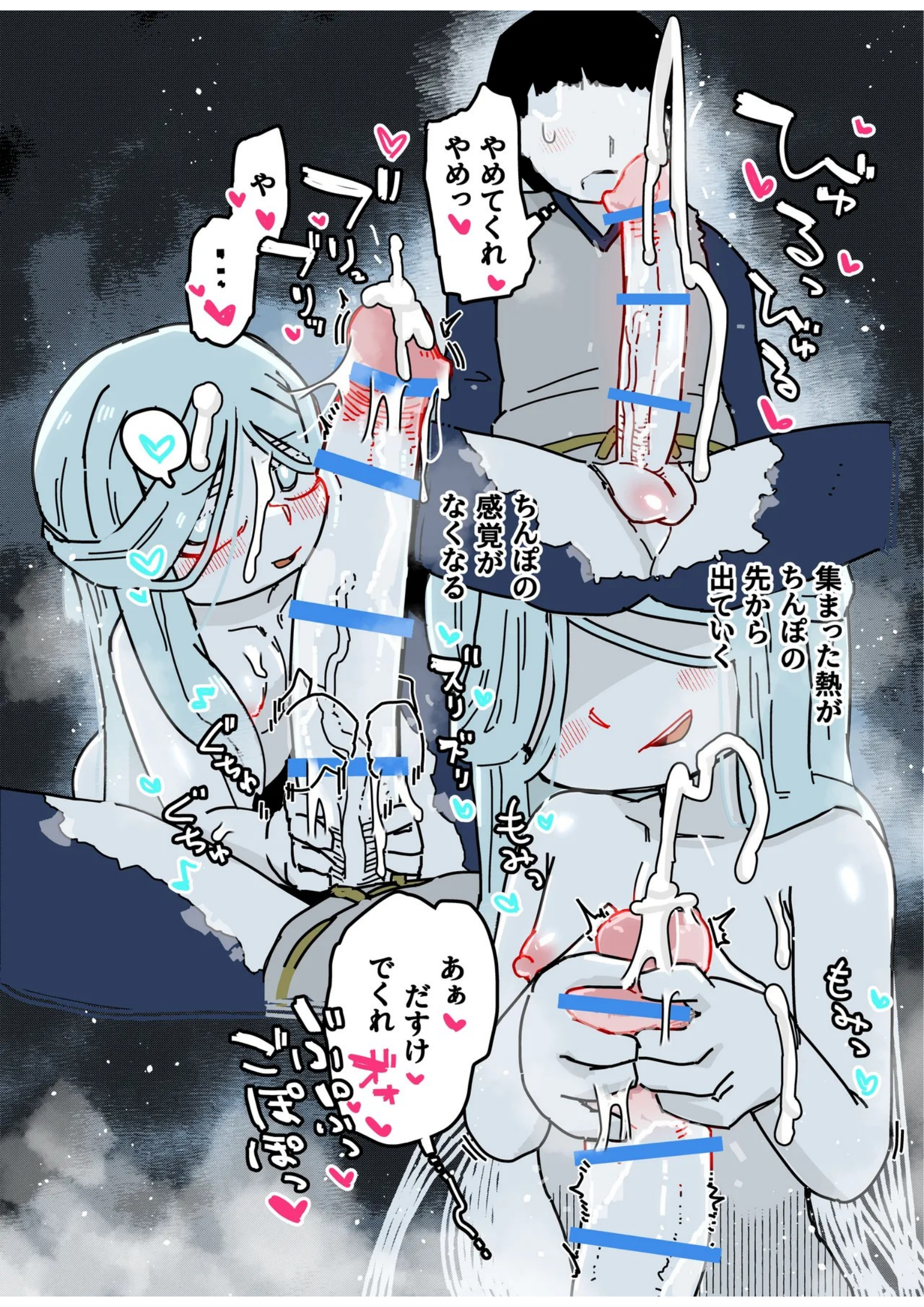
たっ
たっ

あっ
あっ
あっ
あ



スリ
スリ





やめてくれ
やめっ

しゃんしゃん

集まった熱が

ちんぽの

先から

出ていく

ちんぽの

感覚が

なくなる

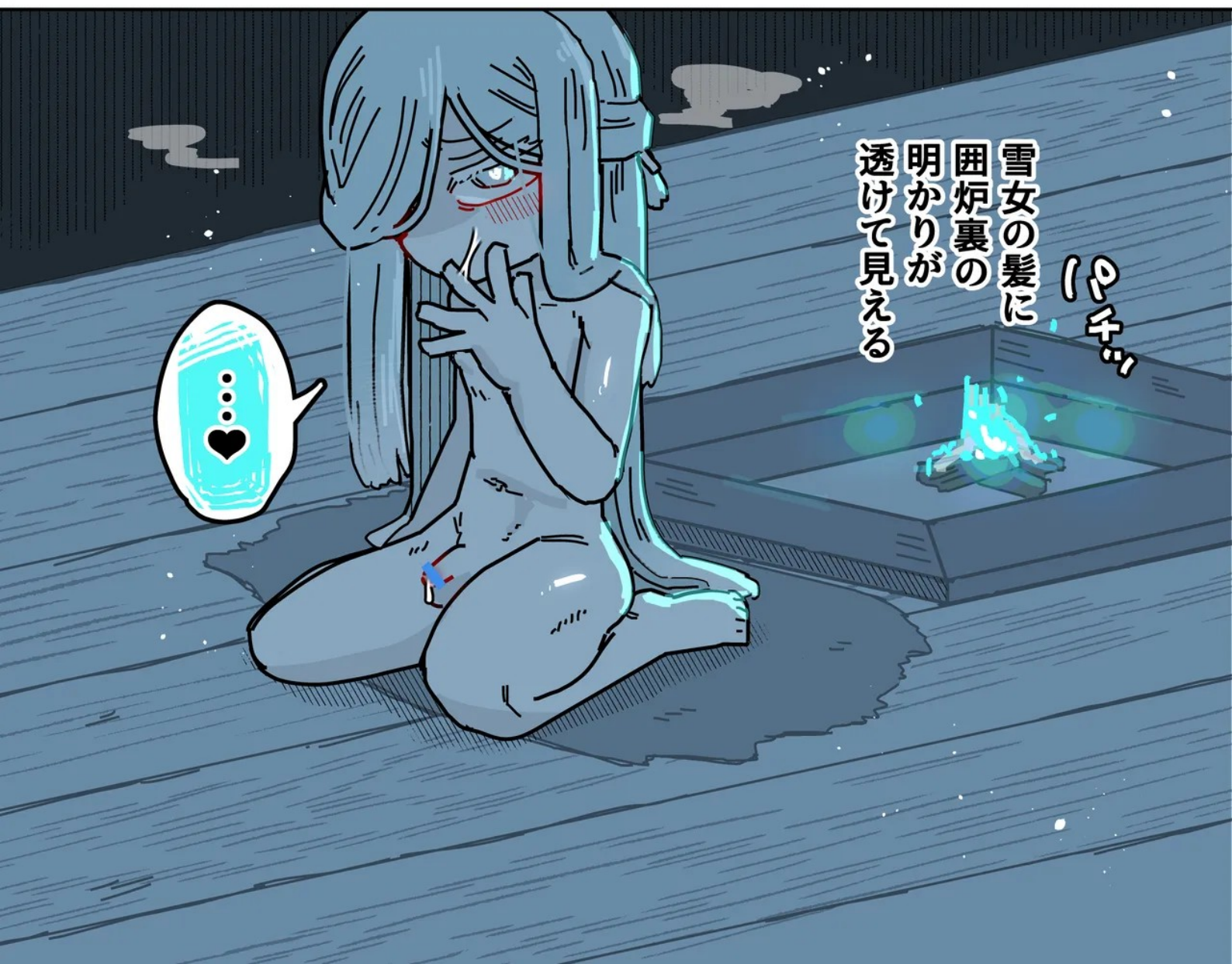
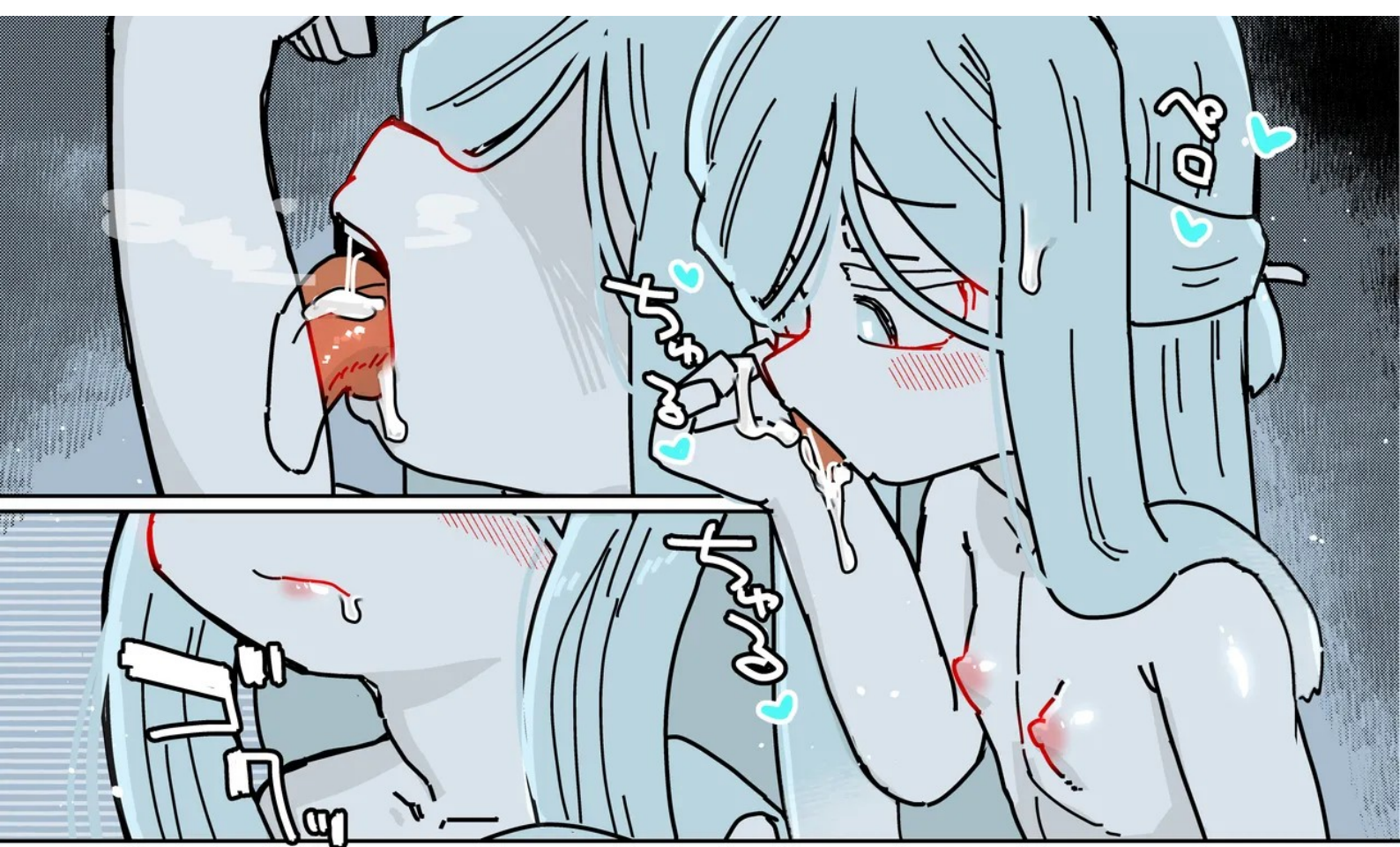
ぐんぐん

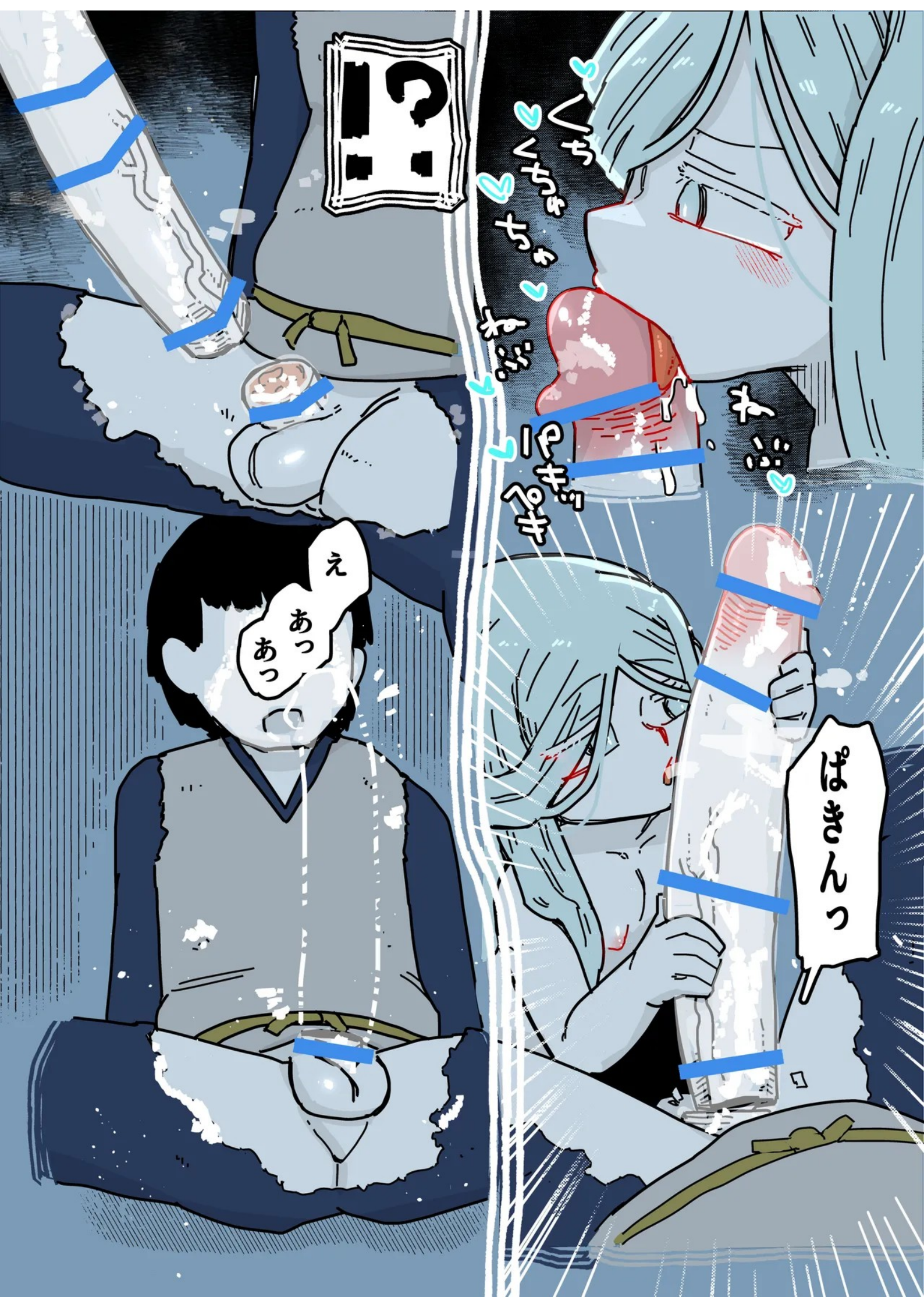
もみっ

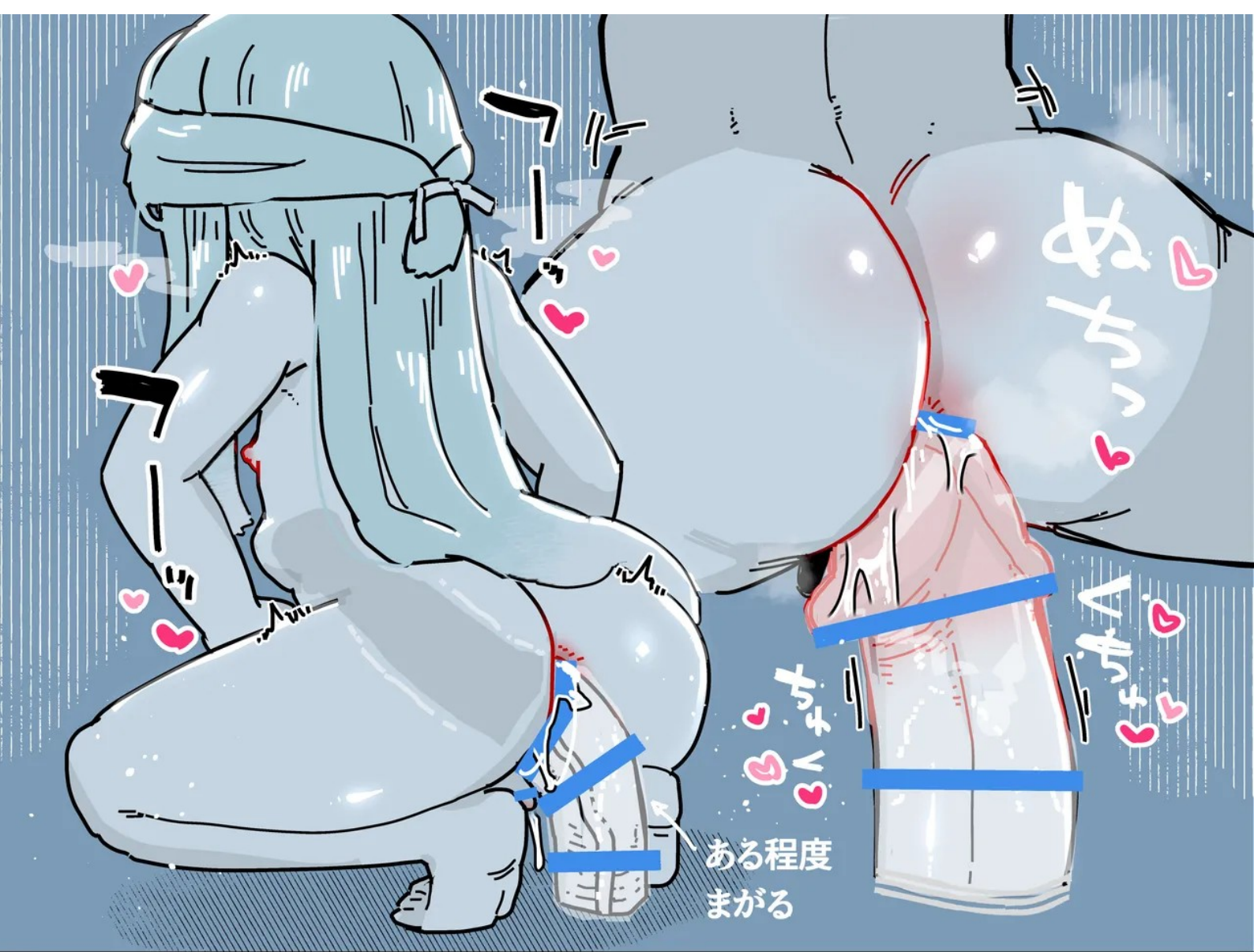
もみっ

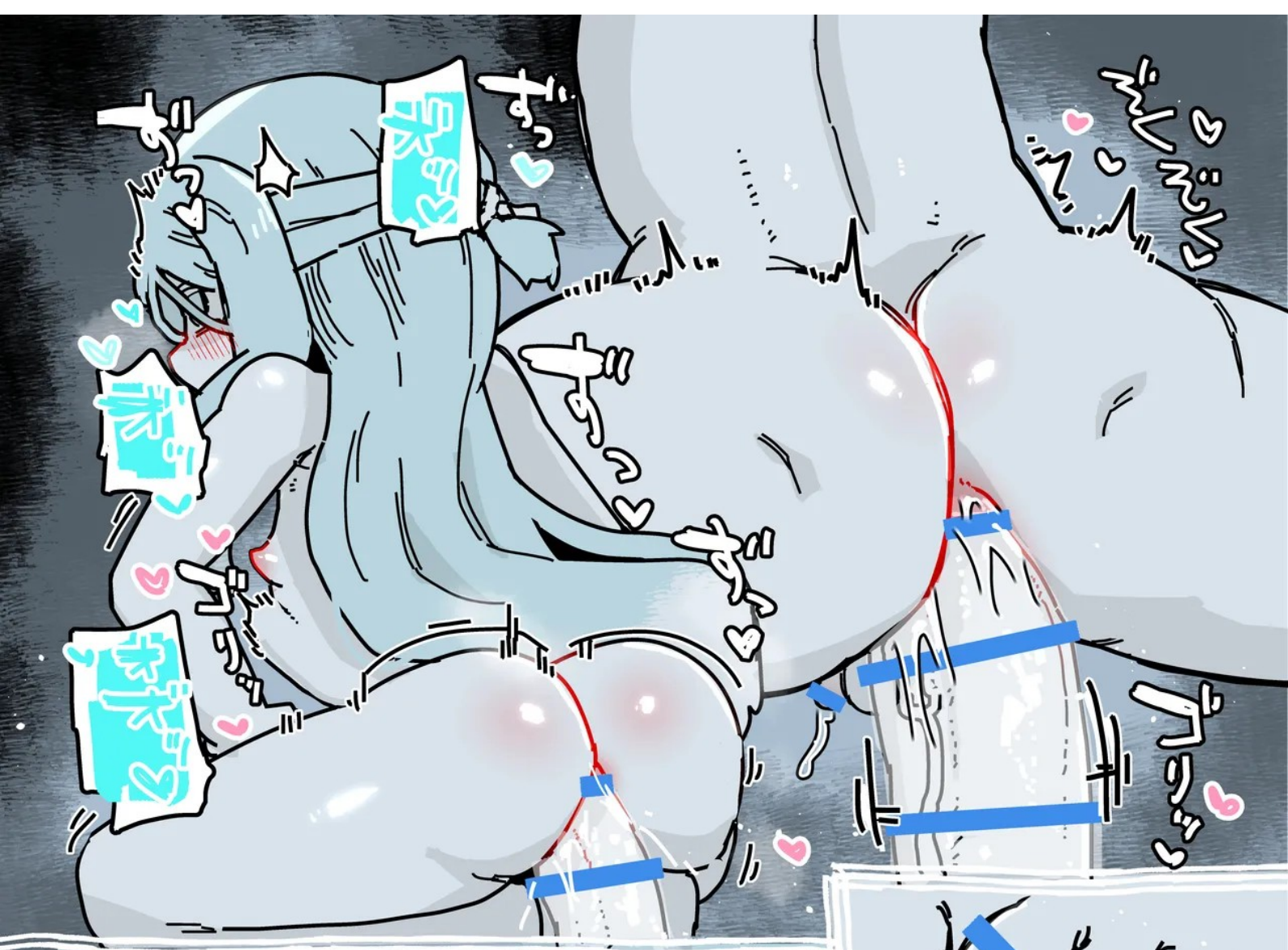
ああ
だすけ
でくれ

ぐんぐん
ぐんぐん
ぐんぐん

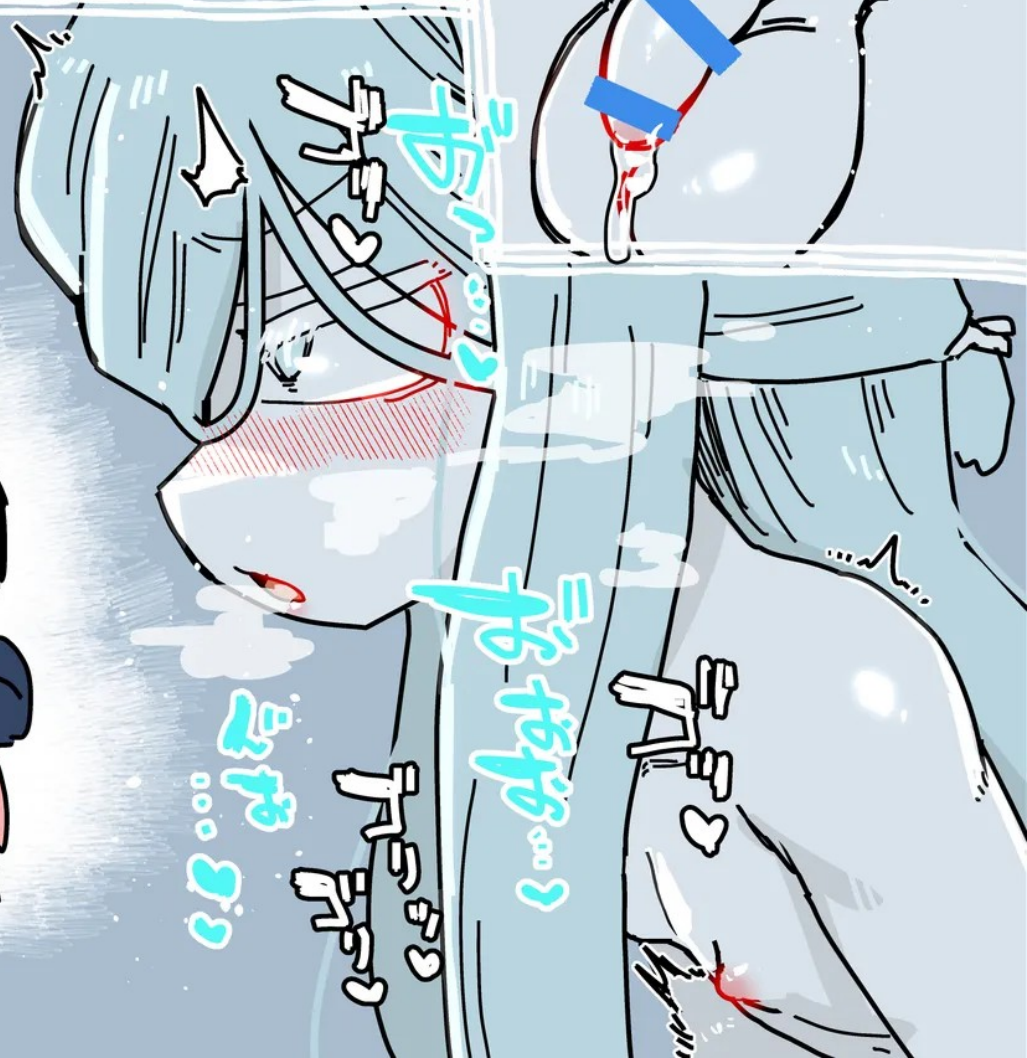
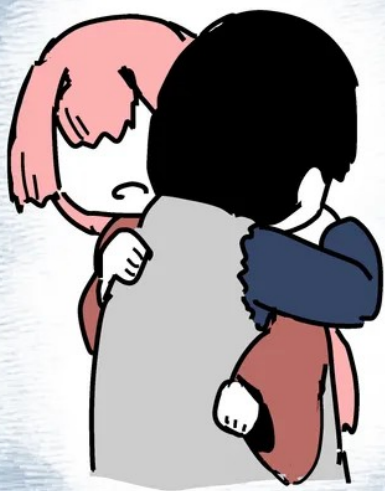




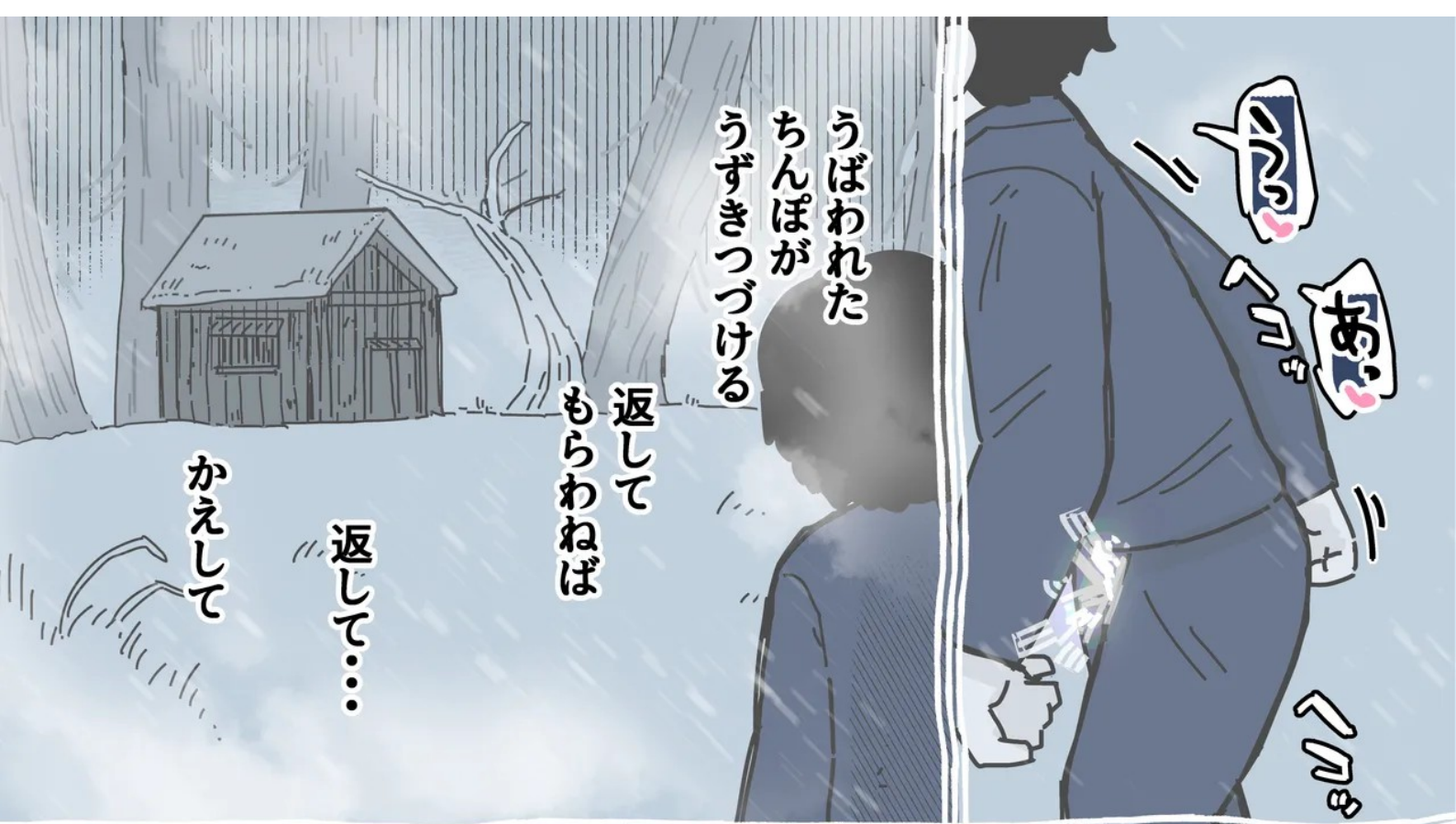




しもとは
家につくと
すぐに山の
できごとを
妻に話し
戸締りをした





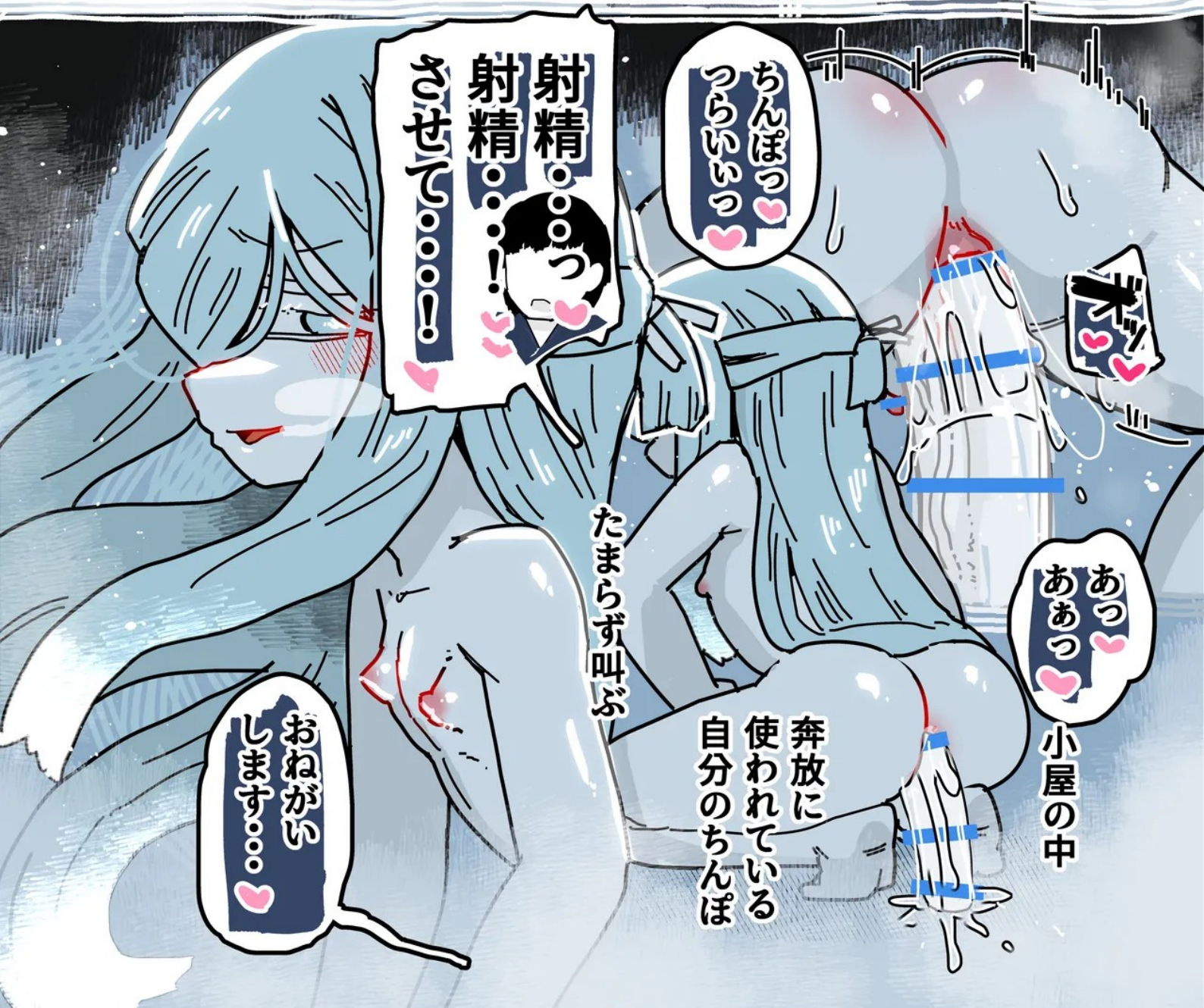


うばわれた
ちんぽが
うずきつづける

返して
もらわねば

返して…

かえして



ちんぽ♡
つらい♡

射精…!!
射精…!!
させて…!!

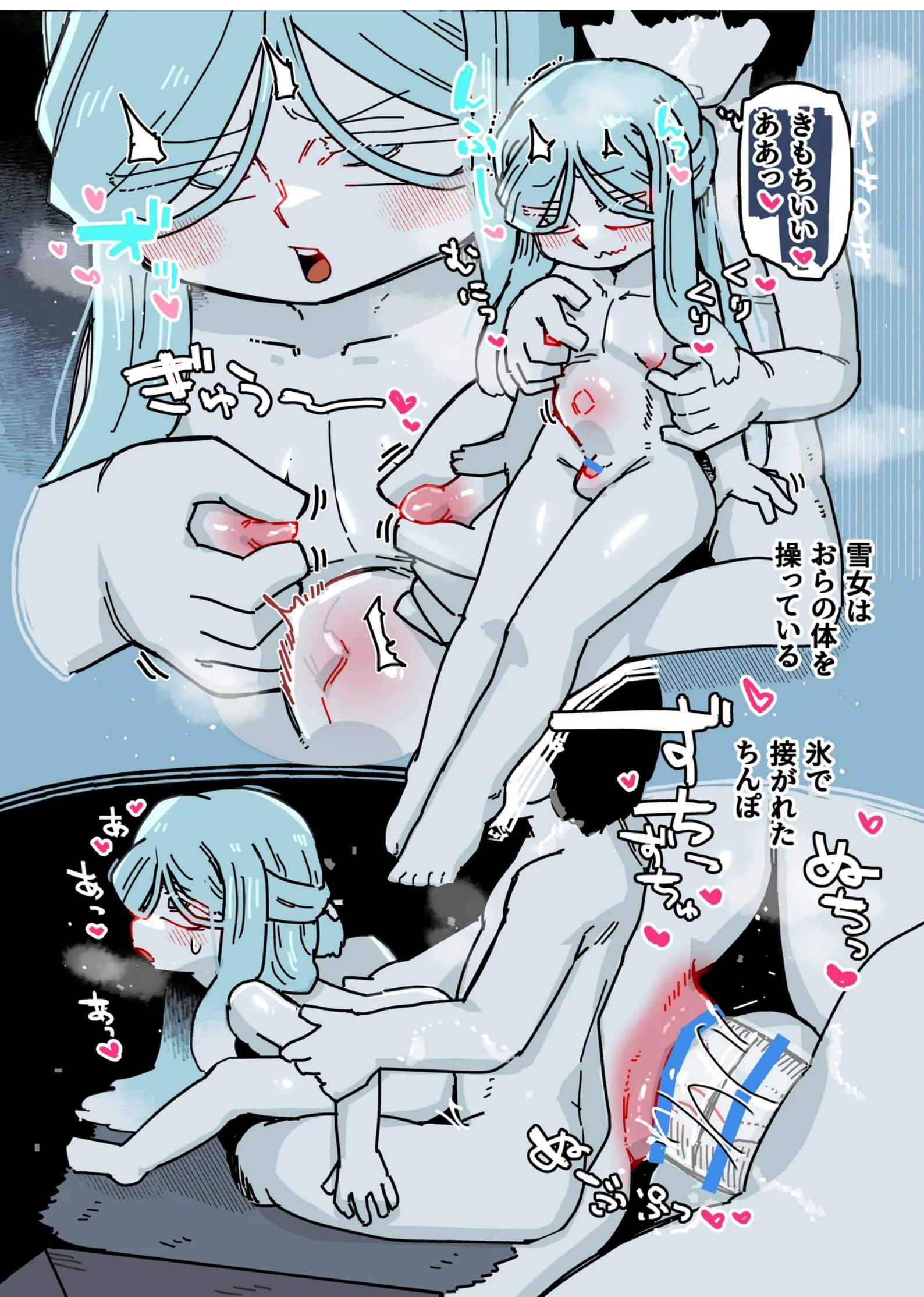
たまらず叫ぶ

奔放に
使われている
自分のちんぽ

あっ♡
あっ♡
あっ♡

小屋の中

おねがい
します…♡



戸が開き
冷たい風が
吹き込む

うしろで
誰か叫ぶが
すぐ静かにな
った

頭ん中
まで
凍って
うまく
かんがえ
られ
ない

穴の
お奥
ほじる

だれか
きた？

射精
射精

あっ
あっ

ずゅずゅ

ちゅちゅ

うん
うん

目だけが
動かせる

氷の中に
いたのは

おらの後を
追ってきた
ずわえ
妻だった

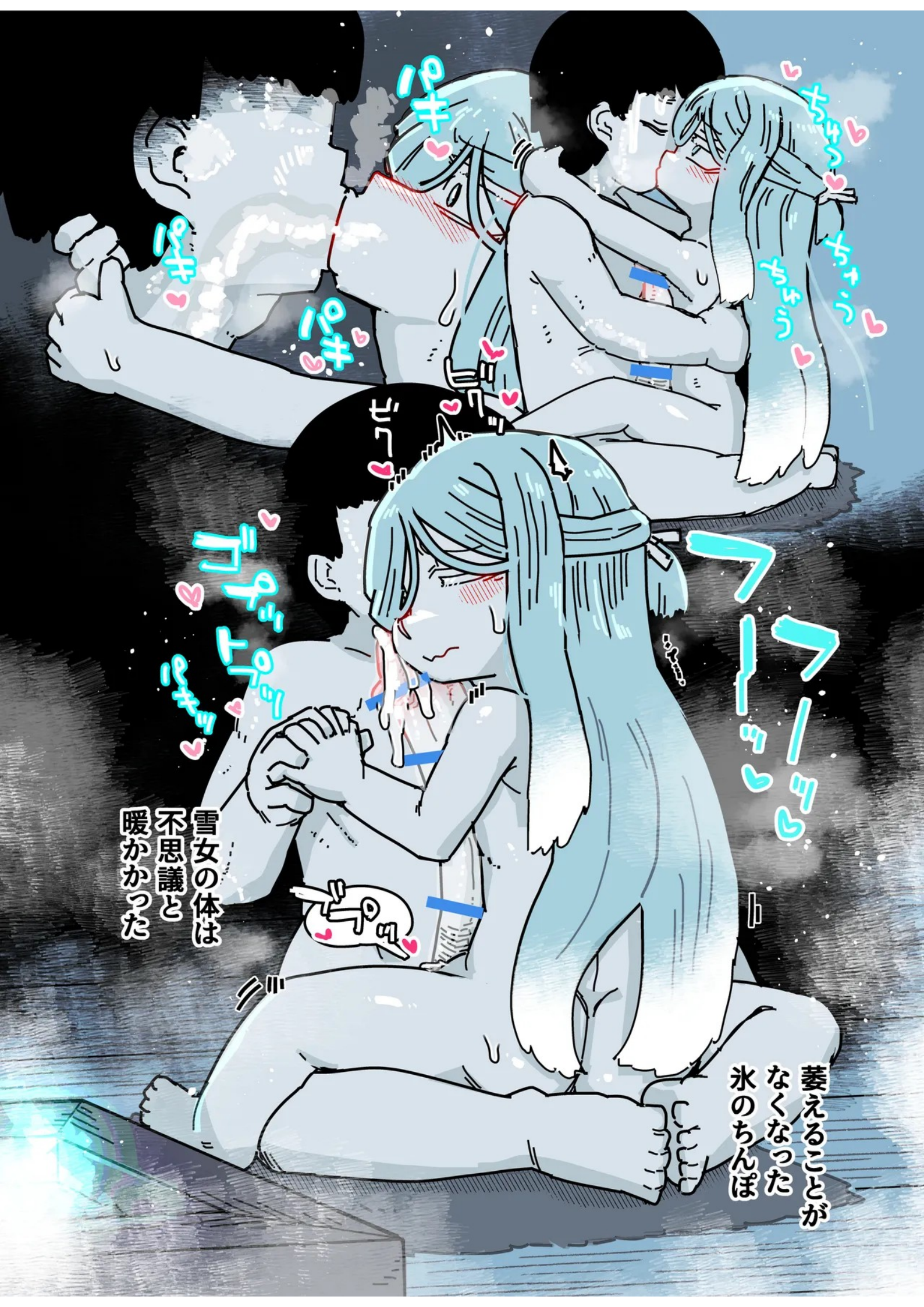
ああつ
あああつ
あああつ!

ごめんなあ
ごめんなあ

みないでくれ
みないで...

きゅんきゅん
きゅんきゅん

きゅんきゅん
きゅんきゅん



雪女の体は
不思議と
暖かった

萎えることが
なくなった
氷のちんぽ

ずわえ
氷柱をみて
笑う雪女

おわり